



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第6巻第
2号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第6巻第2号). 泌尿器科紀要 1960, 6(2): 152-152

ISSUE DATE:

1960-02

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111895>

RIGHT:

編集後記

中部地方会の事(Ⅱ)11月6日の日泌理事会に中部から楠, 稲田が出席するが, その際に中部として要望すべき事項に就て検討された。理事の中に健保担当の人を選び泌科関係の健保問題を検討して貰いたい, 文部省科学研究費配分に泌科として妥当な方法はないか, 坂口賞のあり方に就ては, 坂口先生の御意志や当初からの事情もあるが, 日泌学会の事業として行う以上は現在の学会に於いて改めて検討するのがよからう, 大学に於ては泌科講座独立, 総合病院に於ては泌科新設を促進するように努力してほしい等と, 活発に発言せられた。これらは斯学の発展のために極めて重要な事である。

次回の大阪医大(石神教授)は既に決定しており, 次々回は岐阜医大(近藤教授)と決められた。開催地はなるべく多地方に亘るのがよいが, そのためには開催地にあまり経済的負担をかけぬようにせねばならぬ。

学会は経済センター講堂で行われたが, 実によい会場である。会の運営も順調であつた。出席者は約200名と算えられた。金沢助教授の特別講演, 尿道疾患のシンポジウムは共に有意義なものであつた。然しシンポジウムのやり方はなかなかむずかしい。一般に各講師がそれぞれの分担課題を10分か15分ずつ単独講演する形になり易い。どうしたら本当のシンポジウムとしての意義を発揮出来るか。これは本会に限らず, 各学会にて大いに研究すべき問題である。また地方会にてはシンポジウムや座談会的のものを主とするべきか或はなるべく多くの会員に気軽に症例報告でも発表する機会を与えるべきか等に就ても考慮する必要がある。

一般演説の持ち時間を超過するものが少くなかつた。先般の東部地方会に比べて, その点がややルーズのように思えた。然し結局は全体で45分間程の延長で終つたので, あまりやかましく, 神経質になる程の事もないようだ。とはいふものの, やはり時間は守るのが本当であろう(次号へ続く)。(昭和35年2月)

購読要項

1. 発行は毎月(年12回)とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金1,000円を前納する。1冊料金100円, 払込みは振替口座番号京都4772番 泌尿器科紀要編集部, 或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ), 住所(雑誌郵送先), 勤務先, 職地位, 自宅開業の別, 送金方法を御記入の上編集部宛。

投稿内規

1. 原稿の種類は綜説, 原著, 臨床報告, その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き, 当用漢字, 平仮名, 新仮名使いを用い, 片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表, 附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名: 誌名, 巻数: 頁数, 年次。
例. 中野: 泌尿紀要, 1: 110, 昭30. Lazarus, J. A.: J. Urol., 45: 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し, 之には欧文の標題, 所属機関名, ローマ字著者名を附け, なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻訳します。抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁500円, それ以上の頁, アート頁, 図表, 写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈, それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部。